

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：宮古島市

活動地域：宮古島市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

「個別マンダラづくり」と「産官民の横断的なチームづくり」を通じた持続・自立型プロジェクトの形成※昨年度は、マンダラづくりによるエコアイランド宮古島実現に向けた起点探しプロジェクト

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

宮古島市版マンドラ Ver.04

- 環境
- 経済
- 社会

<課題③>

若者が流出し産業と文化を維持できない

働く世代の考え
地域内留学制度

女性
移住者
高齢者

人間関係が濃すぎる
域外との連携による遠隔高等教育

地域行事
集落景観

空き公共施設
子どもに地域の役割

車が無いと不便
高齢者の引きこもり

玉ねぎ
ゴーヤ
クワガタ

農業
個人商店

かぼちゃ
集落センターから見える夕日

牛
在沖友利

古民家
集落センター

方言が通じない
拝主

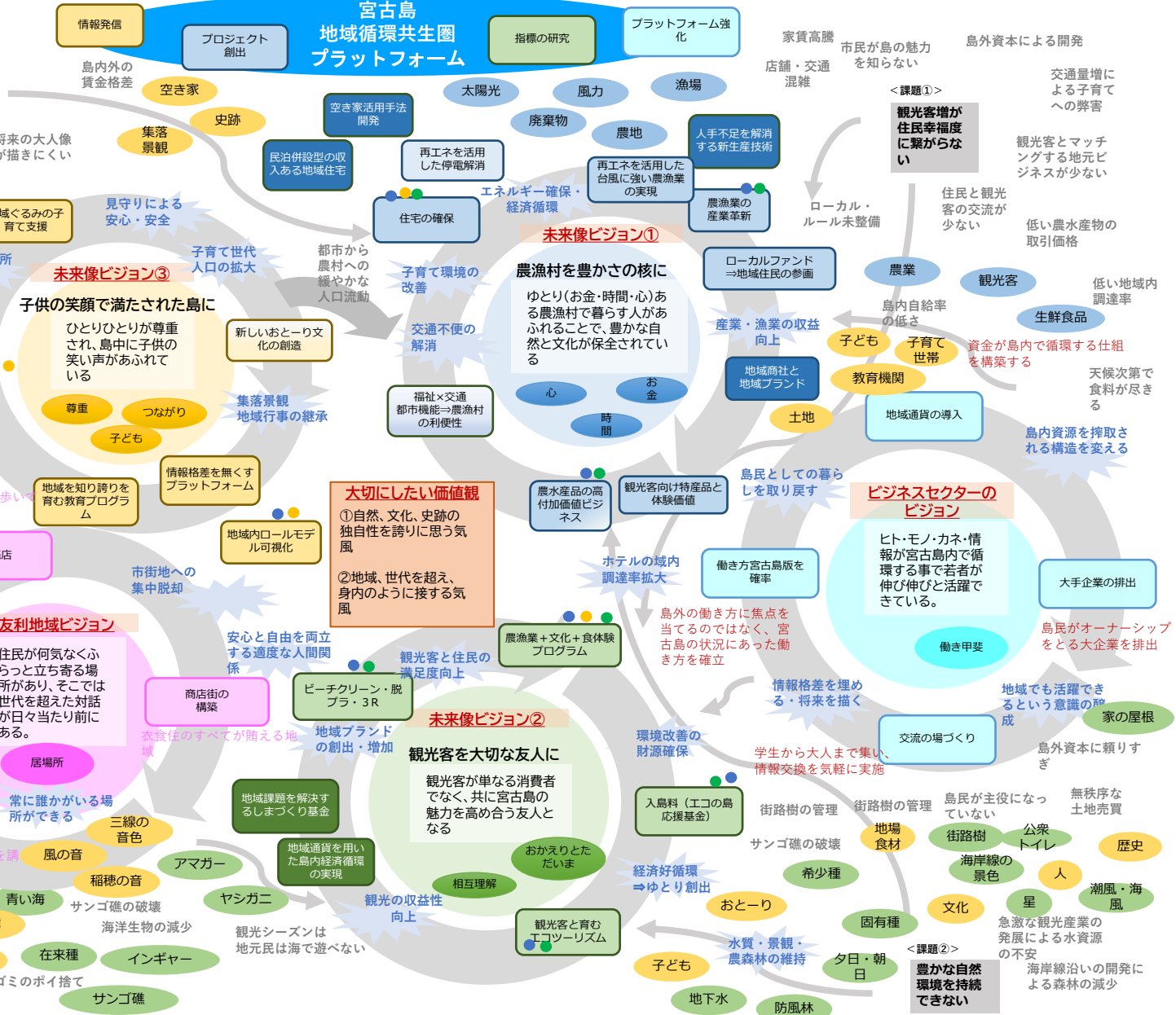
長男不在
敬老会

少子化
有志会

歴史文化が継承できない
誰でも知っている

白い砂浜
子供会

アンナイする



Miyako

Sustainable

Island

Network

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	「千年祭（SDGsプロジェクトビジネスピッチ）」の実施		
	概要	エコアイランド宮古島を発信し共感してもらうことを目的に、ブランド化事業を行ってきた。その中で、市民とのコミュニケーションを生み出す手法を確立してきた。一定の成果を踏まえ、今後の発展として、持続可能な島づくりに向けて具体的なアクションを起こすこと、「官民が連携してSDGsプロジェクトを創出する島」として事務局伴走型のビジネスピッチを実施する。		
	課題・ボトルネック	運営を持続可能とするための人的支援	力を借りたい人物・企業像	取り組みへの理解のある専門家及び地域コーディネーター

2	事業名	個人商店空き地で、女性中心の3万円ビジネス		
	概要	友利地区では、以前個人商店が数店立ち並んでいた。それは生活必需品の購入だけではなく、地域住民の憩いの場としての機能も果たしていたのだ。高齢化に伴い閉店を余儀なくされたお店を、地域に住む女性たちの力を集結させて「月3万円を稼ぐ」ことを目標とする3万円ビジネスを軸に、「新たな個人商店」を展開する。		
	課題・ボトルネック	・プラットフォームの中で、持続可能にできる事業アイデアか否かを検討する必要がある。	力を借りたい人物・企業像	・経営のノウハウを教えられる人（コンサル） ・社会的なプロジェクトとして伴走支援できる人材

3	事業名	屋根に第三者所有モデル設置と貸与による空き家予防プロジェクト		
	概要	宮古島市では住宅不足による家賃高騰と島外資本による住宅整備が進んでおり、移住者増による恩恵が島に還流しにくい構造にある。地域にある家屋が相続に伴って所有権が島外に流出することを予防し、地域の資本として移住者に貸し出す（借家料が地域に還流する）ことは地域経済循環を高めることにつながる。また、宮古島市のエネルギー（電気業）は移入超過にあり、エネルギーの自給力を高めることが重要な構造にある。狩俣地区では、本年度モデル事業として集落拠点施設への第三者所有モデルでの太陽光パネルの設置、EV車による蓄電・送迎サービスに着手している。これらの事業と連動し、住宅へのパネル設置と売電の仕組みがモデル化されることで、今後、他の住宅への設置・普及も期待でき、これはエネルギーの地産地消（地域内循環）につながる。		
	課題・ボトルネック	地域循環共生圏に資するプロジェクトのタネであるが、事業として成り立つのか、また持続性はあるのか、法的に問題は無いのか、その他の課題等について解決していく必要がある。	力を借りたい人物・企業像	プロジェクトへの伴走支援、社会的な取組として資金集めに関する専門的な知見、空き家や相続、不動産の管理について法的なアドバイスを行えるコンサルティング

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと①

- エコアイランド宮古島にとってプラットフォームの意義や目的について、コアメンバー（市関係課・委託事業者・地域コーディネーター）とのミーティングを通して深めた。そのミーティングにおいて、プラットフォームに必要とされる機能を見出すことができた。また、連携課である地域振興課が友利地区において積極的な対話の場の創出、エコアイランド推進課では、市長と若者コミュニティグループとの意見交換会を開催した。学校との連携も行なっており、コアメンバーと共に池間中学校製造のオーガニック化粧水の市長・教育長へのプレゼンの機会創出や、記者発表の場づくりの支援を行った。その他、市役所内でも、市街地中心部の公設市場の活性化の企画書を横断的に作成するなど島の持続可能性を踏まえた連携がされた。令和3年2月には、次年度のプラットフォームの取り組みについて説明をする機会として「キックオフイベント」をオンラインにて開催した。宮古島島内でも軒並みイベントが中止されていた中、コロナ禍に対応した形で実施した。島内マスコミ（新聞・テレビ・ラジオ）でも告知、ラジオでも生放送するなど地域循環共生圏プラットフォームの周知を図ることができた。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと②

- 支援チームは、有識者（WG委員）及び地域コーディネーター、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（以下、MURC）（請負）の三者で構成して頂いた。

有識者として龍谷大学深尾昌峰教授には、地域循環共生圏の理念やローカルファンドの機能の構築支援を頂いた。事務局との意見交換会やキックオフイベントでの基調講演を通して、プラットフォームの将来的な機能として、社会的投資を呼びこむことや休眠預金の活用を目指す展望ができた。

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- コロナ禍において参集しワークショップを行うことができない中、本事業の中間報告会において個別のヒアリングを行った団体を参考に、個別ヒアリングを実施した。その際には、様式を作成しコアメンバーで共有した。

地域のコンセプトを描く！

- 地域の声を拾う機会の創出と、拾った声をマンダラに落としこむことは難しい。プラットフォーム構築に関わるステークホルダー（特にコアメンバー）との協働があったからこそ、描くことができた実感した。

事業のストーリーを語る！

- 事業のタネを見つけるという意識でヒアリングやワークショップに臨む中で、アイデアを持つ方は小さな宮古島でも沢山いることに気づいた。そのことから、次年度における取り組みへの希望が湧いた。

地域の目標を立てる！

- 「話を聞きに行く」ことにより、マンダラへも要素が加えられたことで、そのことを反映した指標が立った。バックキャストिंगの重要性を改めて感じた。目標を立てる際に、支援チームとの意見交換を通して専門的な知見をアドバイス頂けたことで、取り組みを進めることができた強く感じている。

2ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 2ヶ年の環境整備の取組全体を通して、ボトルネックとなったこと、困ったことや難しかったこと、新たに見えてきた課題などを記載ください。
- 活動初年度においては、地域へ飛び出し、地元のファシリテーターと共にワークショップの開催やSDGsカードゲームの実施を行うなど、本事業を通して地域循環共生圏というフィルターを通して地域のビジョンを作成することができ新鮮で意義深い取り組みとなった。
- 令和2年度においては、コロナ禍の目まぐるしい変化に戸惑いがあった中、ワークショップ等を開催することができなかった。そのような中で、事務局とコアメンバーでは幾度もミーティングを行った。そのことで、改めて地域循環共生圏の取り組みに対しての意義や方向性について深く議論ができた。また、支援チームの支援によって専門家のご意見、地域コーディネーターとの協働、経済分析といった形で初年度には無かった取り組みの拡がりと発展があった。そのような取り組みを通じて次年度以降の宮古島における地域循環共生圏プラットフォームの方向性を定めることができた。
- 今年度の集大成として次年度へのステップアップとして、オンラインによる「千年祭キックオフイベント」を実施することができ弾みをつけることができた。

今後の展望

- 次年度において始動する宮古島の地域循環共生圏プラットフォームは、「情報発信」「SDG s プロジェクト創出と伴走支援」「指標の研究」「プラットフォームの強化」を軸に取り組みを進めていく。地域の方とのワークショップやソーシャルシネマを通した対話の場づくりや、プロジェクトのタネを見つけ育てていく伴走支援を行い、「千年祭」という発表イベントに向けて取り組みを進める。
- 事務局として成果を出すこと、プロジェクトの創出がされることは必須と感じている。宮古島において多くのアイデアがあることから、しっかりと伴走支援していきたい。
- 着実に取り組みを継続し、成果を積み重ねていきたい。また、今後の展望として、寄附や社会的投資、休眠預金の活用等を行える取り組みとして成長したい。